

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 京丹後市国際交流協会

1. 事業名称

日本語教育 整備・連携事業

2. 事業の目的

地域の一員として生活する在住外国人等の学習環境が整う体制整備を行うために、自治体や教育委員会、地元企業などとの連携をもって日本語教育の必要性と課題を検討する。

また、これまで行ってきた日本語教室から見える学習者の生活環境、学習ニーズなどを分析し、適切な指導方法を検証する。

3. 事業内容の概要

取組1では、在住外国人を対象に、市消防本部の協力のもと、「あなたや大事な人の命を守るための日本語教室」として、緊急時、災害時に関する日本語と知識を学習する。

取組2では、学習者の増加、多様化に備え、適切なカリキュラムができるよう、学習申込み時の聞き取り項目の確立や使用教材のマッチングを確立する。

取組3では、行政、教育委員会、市内企業等とのネットワークを設ける。在住外国人を取り巻く状況の共有と理解を深めてもらい、その中で日本語教育の必要性、学習機会の提供のあり方を一緒に検討。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年7月15日(水) 13:30~16:00	2時間 30分	京丹後市役所 公室	土井 佳彦 近藤 徳明 川口 誠彦 藤村 益弘 上田美知子 水野 孝典	今年度の事業の取り組みについて	語学力+知識力=自立につながるために
2	平成27年3月17日(火) 14:00~16:30	2時間 30分	京丹後市役所 302	土井 佳彦 近藤 徳明 川口 誠彦 藤村 益弘 上田美知子 水野 孝典	今年度事業の振り返りについて	今後の教室運営について

5. 取組についての報告

○取組1:災害時・緊急時に備えた人財育成日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

災害時や緊急時に必要な日本語を修得することにより、災害時の情報収集能力を向上させ、「自助」を高め、また、災害時や緊急時において、地域で少しでも「共助」できる人材を育成する。

(2) 取組内容

災害の種類や対応を学ぶ。緊急時に自分の状況を説明できる日本語を学ぶ。
簡単な応急処置を学ぶ。

(3) 対象者

在住外国人

(4) 参加者の総数 30人

出身・国籍別内訳

中国	4人	インドネシア	1人
アメリカ	5人	タイ	1人
ブラジル	1人	ペルー	1人
ベトナム	3人	フィリピン	17人
ネパール	1人	日本	1人

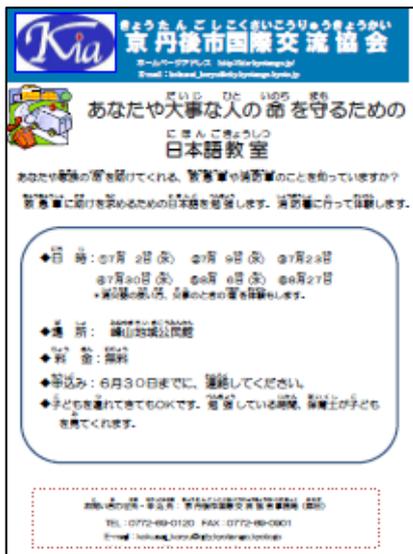
(5) 開催時間数(回数) 60時間 (全 15回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年7月2日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	14人	中国(3人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	自己紹介 今後の学習について	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
2	平成26年7月9日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館 峰山消防本部	17人	中国(3人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	消防本部の仕事 煙霧体験 消火器の使い方	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	消防本部
3	平成26年7月23日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	18人	中国(4人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	消防本部の仕事についての日本語について 火事=火災 意味と漢字の使い方	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
4	平成26年7月30日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	18人	中国(3人), フィリピン(6人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	消防本部の仕事についての日本語について	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
5	平成26年8月6日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	21人	中国(4人), フィリピン(8人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	自分の居場所を場所を伝える 自宅にいます ○○の建物の近くです	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
6	平成26年8月27日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	17人	中国(3人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	燃えている物・場所について説明する 煙・炎が出ている	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
7	平成26年9月2日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	17人	中国(3人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	応急手当の実践 骨折 喉に物が詰まる 心肺蘇生	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	消防本部
8	平成26年9月9日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	17人	中国(3人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	体の部位について 体の外側(爪、腕、脚など)	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
9	平成26年9月16日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	20人	中国(3人), フィリピン(8人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	体の部位について2 体の内側(心臓、骨)	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
10	平成26年9月30日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	19人	中国(3人), フィリピン(7人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	ケガ・病気の症状について説明する 熱がでた 嘔吐する	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
11	平成26年10月7日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	19人	中国(3人), フィリピン(7人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	ケガ・病気の症状について説明する 血が出ている やけどをした	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
12	平成26年10月14日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	23人	中国(3人), フィリピン(11人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	ケガ・病気の症状について説明する (オノマトペを使い説明する:ぞくぞく、フラフラなど)	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
13	平成26年10月21日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	18人	中国(3人), フィリピン(6人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	相手の症状を聞いて理解する(声掛け) 痛い 苦しい	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	
14	平成26年10月29日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	18人	中国(4人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(3人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	災害時・緊急時の日頃からの備え	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	消防本部
15	平成26年11月5日 13:00~17:00	4時間	峰山地域公民館	15人	中国(3人), フィリピン(5人), アメリカ(5人), タイ(1人), ベトナム(1人)	災害時・緊急時の日本語を修得する	まとめ・ふりかえり	上田 美知子 朝日 恵子 瀬川 純子 東村 幸子	

(7) 参加者の募集方法

京丹後市から16歳以上の在住外国人リストをもらい、個別に発送を行った。(チラシ別添)



(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○第6回 8月27日

【燃えている物・場所について説明する】

* 燃えている場所や物について、いろいろな場面の画像を使い、燃えている物の名前や場所の伝え方を学習した。

○第6回 9月2日

【応急手当の実践】

* 消防本部の救急救命士を講師に迎え、倒れている人を見つけた時の心肺蘇生を実践した。

9月2日の様



(9) 取組の目標の達成状況・成果

取組終了後、個別に聞き取りを行った結果、子どもや高齢者と一緒に暮らしている学習者にとって、もしもの時に備えることで自分が家族を守りたと思ったという意見が多くあり、応急処置なども学んだことにより、緊急時に周りを助けられる人材が育成できた。

普段はあまり使わない語彙も多くあったが、学習者は意欲的に学ばれた。

また、取組3の中で、この日本語教室についても説明を行ったところ、「外国人＝要支援者」というイメージがあるが、日本語を修得することで、支援者として地域を担ってもらえるということに、気づかされた」という意見もあり、外国人が「共助」できる人材だという認識を多くの方に知ってもらい、多文化共生の地域づくりへ一翼となった。

(10) 改善点について

学習者のレベルが様々だったが、講師が少人数のグループで丁寧に指導された。また、難しい言葉はそれぞれの母語の資料も用意した。

(かながわ国際交流財団の多言語問診票を使用)

全体的に、日本語を書いて覚えるという内容は少なかったもので、日本語の文字を修得するという部分では不十分だったと思う。

○取組2:日本語教育プログラム検討会

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
多様化する学習者のレベルやニーズ、生活環境にも配慮できる日本語教室を企画・調整できる人材を育成。
- (2) 取組内容
日本語ボランティアを対象に、学習者のニーズとレベルチェックの意味や方法を探る検討会を開催。
- (3) 対象者
日本語教室推進委員、日本語ボランティア、今後、日本語教室で指導したい方。
- (4) 参加者の総数 16 人
出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	16人

- (5) 開催時間数(回数) 25時間 (全 6回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年6月16日 13:00~17:00	3時間	京丹後市役所	10人	日本人(10人)	学習者のニーズ把握と背景をとらえる	現在の学習者の情報の共有	上田 美知子	
2	平成26年7月15日 13:00~17:00	5時間	京丹後市役所	16人	日本人(16人)	学習者のニーズ把握と背景をとらえる	課題解決型日本語教室のポイント	土井 佳彦	
3	平成26年7月16日 13:00~17:00	5時間	京丹後市役所	16人	日本人(16人)	学習者のニーズ把握と背景をとらえる	演習	土井 佳彦	
4	平成26年8月19日 13:00~17:00	5時間	京丹後市役所	16人	日本人(16人)	学習者のニーズ把握と背景をとらえる	目標設定と到達度の測り方	土井 佳彦	上田 美知子
5	平成26年12月15日 13:00~17:00	3.5時間	京丹後市役所	10人	日本人(10人)	学習者のニーズ把握と背景をとらえる	演習	上田 美知子	
6	平成27年1月15日 13:00~17:00	3.5時間	京丹後市役所	10人	日本人(10人)	学習者のニーズ把握と背景をとらえる	演習	上田 美知子	

- (7) 参加者の募集方法
日本語教室推進委員、日本ボランティアへ周知。また、ボランティアから、知り合い等に声掛けを行ってもらった。

- (8) 特徴的な活動風景(2~3回分)
講師から、地域の日本語ボランティアに求められる役割について説明。また、各地の事例も紹介してもらい、課題解決型の日本語教室ができるためのポイントを学んだ。
各学習者の目標設定と到達度の測り方について、演習を行い、誰がチェックするのかなど今後の日本語教室の連携についても検討を行なった。
また、文化庁の「生活者としての外国人のための日本語教育の標準的なカリキュラム(案)」を参考に、今後のカリキュラムの組み立て方などの演習を行った。

第2回 7月15日「課題解決型日本語教室のポイ



(9) 取組の目標の達成状況・成果

参加者から聞き取りを行ったところ、学習者の日本語レベルだけを教え方の基準とするのではなく、生活環境等にも配慮することの重要性を感じたという声が多かった。

また、今後は各学習者の情報を共有し、目標設定と到達度について全体で把握していく方向になった。それぞれのボランティアが日本語教室の内容を企画、調整できるようになり、どの学習者にも適切なカリキュラムが提供できるようになったと考えており、そのことが成果と言える。

(10) 改善点について

平日の日に開催したことから、夜間にボランティアを行っている方の参加がほとんどなかった。フォローアップも含め、開催時間を夜間にするなどの配慮する必要がある。

○取組3：日本語教育普及ネットワーク構築

(1) 体制整備に向けた取組の目標

京丹後市多文化共生推進プランを策定するにあたり、生活者としての在住外国人の様子を市内の関係機関と情報共有し、日本語教育のあり方を検討することで、今後の日本語教育体制の整備を推進していく。また、在住外国人が地域の一員として暮らしやすい地域づくりに資する。

(2) 取組内容

行政、教育委員会、市内企業等とのネットワークを設ける。在住外国人を取り巻く状況の共有と理解を深めてもらい、その中で日本語教育の必要性、学習機会の提供のあり方を一緒に検討する。

(3) 対象者

各団体等の関係者

(4) 参加者の総数 57人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	57人

(5) 開催時間数(回数) 12時間 (全 4 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年6月20日 14:00~16:00	2時間	宮津ロイヤルホテル	15人	日本(15人)	在住外国人の現状と今後の展望	ソロプチミスト宮津の会員へ市内在住外国人の特徴(20代~30代女性が多い)や外国人が日本語を学ぶ目的などについて説明。	上田 美知子	
2	平成26年7月18日 10:00~12:00	2時間	京丹後警察署	18人	日本(18人)	在住外国人の現状と今後の展望	京丹後市外国人安全対策協議会の中で、市内在住外国人の状況や日本語を学ぶことで犯罪から身を守ることができることなどについて説明。	上田 美知子	
3	平成26年8月20日 10:00~17:00	6時間	京丹後市役所	16人	日本(16人)	日本語教育の必要性	多文化共生推進プラン庁内検討委員会で、多文化共生推進プランにおける現状と施策の方向性について他市の事例も合わせて説明。	土井 佳彦	
4	平成26年9月26日 14:00~16:00	2時間	京丹後市役所	8人	日本(8人)	外国籍の児童・生徒に対する日本語教育について	教育委員会、学校と連携し、外国籍の児童に対する日本語支援の必要性について説明	上田 美知子	

(7) 参加者の募集方法

関係団体がそれぞれに参加者の呼びかけを行った。

(8) 特徴的な活動風景

京丹後市多文化共生推進プランの策定と合わせ、庁内検討委員会で検討を行い、行政の関係各部署の課長級に、多言語対応の限界と日本語教育を充実させることの、有効性を理解してもらう機会となった。

外国籍の児童に対する支援体制の整備について、教育委員会と学校、保護者とも連携し現状の共有や他地域の事例なども一緒に検証を行った。

第3回 8月20日「日本語教育の必要性」



第2回 7月18日「在住外国人の現状と今後の展



(9) 取組の目標の達成状況・成果

京丹後市で初めて策定された、多文化共生推進プランの中に、日本語教育の充実を盛り込み、行政と、当協会、外国人雇用企業などと連携し、進めていくことが記載された。それぞれ関係機関と情報共有ができたことで、外国人が地域の一員として暮らしやすい地域づくりに資することができた。

(10) 改善点について

行政、関係機関については、日本語教育の重要性について周知することができたが、広く市民への周知については、まだまだ不十分だったので、今後は広く市民へ周知できる方法を考えていく。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

地域の一員として生活する定住外国人等の学習環境が整う体制整備を行うために、自治体や教育委員会、地元企業などとの連携をもって日本語教育の必要性と課題を検討する。

また、これまで行ってきた日本語教室から見える学習者の生活環境、学習ニーズなどを分析し、適切な指導方法を検証する。

(2) 事業目的の達成状況

在住外国人の学習環境を整えるためには、協会だけではなく、行政、企業、地域など広く市民の理解が必要となるが、この事業を行うにあたり、行政から積極的な理解と協力が得られたことが成果となった。

(3) 地域における事業の効果、成果

平成27年3月25日に「京丹後市多文化共生推進プラン」が策定された。策定にあたり、庁内検討委員会や策定委員会の中で日本語教育の重要性を教育委員会、学校現場、外国人雇用の市内企業、地域の各団体と共有できた。

今後、日本語教育へ広い支援と協力が得られる体制が整った。

取組1については、外国人が災害時に備えることで地域の担い手となることを広く市民に知ってもらえる機会となった。

取組2については、これまでから、在住外国人との直接関わってきた日本語ボランティアに細かい教え方だけではなく、日本語教室の企画・調整についても関わっていける人材が確保できた。日本語を学習する在住外国人だけではなく、日本語を地域の市民が教えているということも、周知できた。

取組3については、京丹後市多文化共生推進プランの策定と合わせ、市民を始め、いろいろな団体へ日本語教育について知ってもらうことができた。

(4) 改善点, 今後の課題について

- 1 今後は、日本語能力の高い在住外国人にも、日本語教育に関わってもらいたい。
- 2 市内企業や就業支援を行う機関から、在住外国人の読み書き能力について向上させるような学習を進めて欲しいという意見が寄せられている。

i 現状

- 1 在住外国人が子育て中でも教室に参加できるよう配慮したつもりだったが、市域が広いこともあり、会場から車で30分以上かかる地域からの参加が少なかった。
- 2 多文化共生推進プラン策定に向けて行った、外国人アンケートでは、9割が日本語の会話ができる一方、漢字で文章を書くことができる人は3割を下回っていることが判明。

ii 今後の課題

- 1 日本語教室推進委員が自主的に研修会などを企画・運営できる体制づくり
- 2 遠隔地で、インターネット環境が整っていない在住外国人への日本語指導の方法
- 3 学習者の成果発表の場を設ける
- 4 就業に繋げるため、読み書きを中心とした学習方法を検討する

iii 今後の活動予定

通常日本語教室は継続して行う。また、多文化共生推進プランを推進する庁内検討委員会でも、在住外国人の日本語に関する情報を共有していく。

(5) その他参考資料

京丹後市 多文化共生推進プラン